

埼玉退教 だより

第 6 号

発行日 2025/6/15

発行者 石川博 編集責任者 山田正美

発行元 330-0062 さいたま市浦和区
仲町 3-13-10 ヤギシタビル 4F

e-mail: yamadamasami015@gmail.com

石破内閣、いばらの道！

高額療養費制度などをめぐる国会運営

石川 博（会長）

昨年の新聞報道では、『高額療養費制度』について、厚生労働省は負担の上限を引き上げる検討に入った」とありました（朝日 11/14）。しかし、年が明けて通常国会が始まると、2 月に石破首相は「上限引き上げ」の修正表明を 2 度も行いました。10 月の総選挙で少数与党となり、30 年ぶりの決選投票を経て発足した第 2 次石破内閣にとっては いばらの道です。3 月に入ると参院予算委員会の審議が始まり、大見出しで「高額療養費 8 月上げ撤回」と報道されました（東京 3/8）。がん患者団体などの代表者らと面会する石破首相の写真がありました。

また、3 月上旬に提出予定だった年金改革関連法案は、一部を削除して閣議決定した後、5 月 16 日に衆院に提出されました。しかし、直後の党首討論で立憲民主党の野田代表から基礎年金底上げ策の復活を求められ、自公と立憲民主 3 党による法案修正の合意の下に衆院を通過しました（5/30）。

医療費の自己負担（2 割、3 割）が高額になったとき家計負担が重くならないよう、上限額を超えた分が「高額療養費」として支給されるという仕組みが高額療養費制度です。この制度は 1973 年に始まりました。例えば、高額な医療費（1 ヶ月分：1 日から月末までの合計）1000 万円の場合、自己負担は 3 割の 300 万円ではなく、17 万円余りでよい（75 歳以上で、所得区分が住民税課税所得 145 万円以上 380 万円未満の場合）という仕組み（制度）です。

自己負担限度額（月額）

$$= 80,100 \text{ 円} + (\text{医療費} - 267,000 \text{ 円}) \times 1\%$$

この計算式に医療費（1000 万円）を当てはめると、自己負担額は 177,430 円となります。

医療費（1 ヶ月分）が 267,000 円までの自己負担は 3 割（＝30%）ですが、267,000 円を超えた分については 1% でよいことを意味しています。保険（医療事故）の醍醐味です。詳しくは、保険者から送られたご自身の「医療制度のてびき（写真は後期高齢者医療保険）」またはインターネットで検索してください。 患者の医療費負担の上限を引き上げる

ねらいは、高齢世代の人口の増加などにより医療費が膨らむ中、現役世代の保険料負担を軽減することにあります。難しい課題ですが避けて通れません。現在は政治課題としては「見送り」になっているので、必ず再燃すると思われます。



埼玉県後期高齢者医療広域連合

1130-0072 埼玉県さいたま市浦和区大宮 埼玉県後期高齢者医療広域連合

再審開始を前に

石川享助（埼玉人教会長・比企支部）

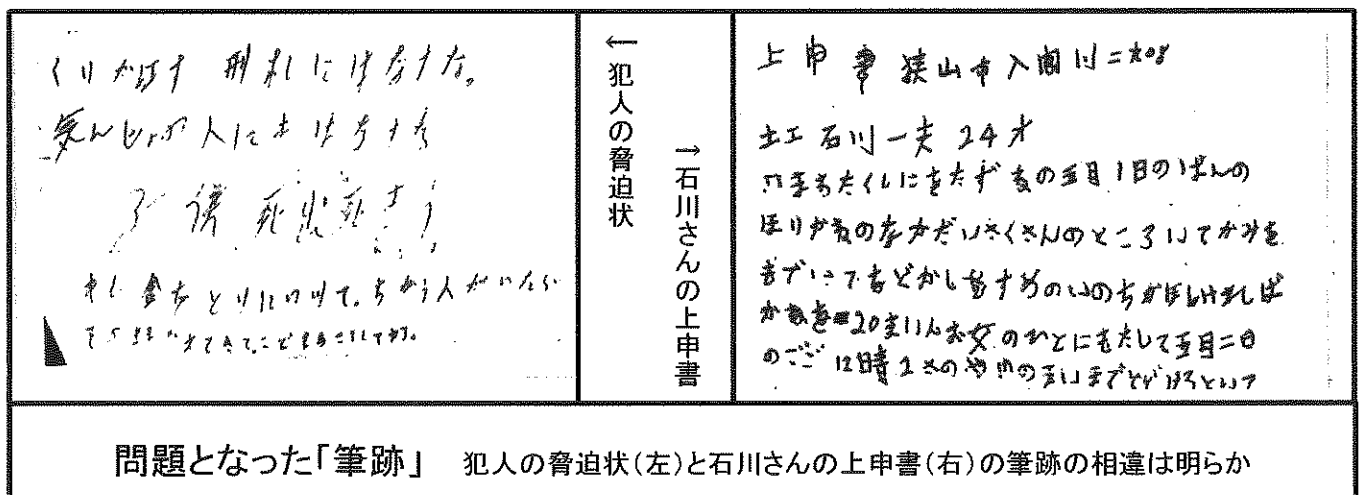
狭山弁護団の河村健夫さんは3月8日の集会で「担当裁判長は無実を証明する複数の（科学的）鑑定を前に、（これらを受け入れ）事実調査を開始する判断をした、としか考えられない」と説明しました。再審請求は「書面審理のみ」で進められます。「証人尋問、事実調査」が始まることは、再審開始につながることを意味します。「4月には何らかの結論が出る」「再審開始の扉が開くのでは」と私たちは強く期待を感じました。しかし、その直後に石川一雄さんの訃報「3月11日に86歳で死亡」に接し、まさに言葉を失いました。

1963年5月1日(水)に狭山市で女子高校生が学校帰りに行方不明となり、身代金を要求する脅迫状が届けられました。女子高校生は5月4日に遺体で発見され、その後、捜査にいきづまった警察は付近の被差別部落に集中的な見込み捜査を行いました。そして5月23日に石川一雄さん(当時24歳)を別件逮捕し、1か月にわたり警察の留置場で取り調べ、脅迫や甘言、誘導によってウソの自白をさせ、犯人にでっちあげたのです。当時の石川一雄さんは非識字者でした。狭山の闘いを支援する作家の鎌田慧さんは「文字を書けない人が、脅迫文を書いて人から金を取るなど考えるはずがないです」と明快にこの事件が冤罪であることを訴えています。

石川さんは自分の「無知」から自らが犯人に仕立てられたことに気づき、無実を晴らすため獄中で懸命に文字を学びました。そして、取り戻した言葉と文字に自らの思いを託し、手紙や短歌で全国の支援者に無実を訴えました。自らが非識字者であったことは部落差別の結果だったと気づき、そこから生き方を反転させていきました。1994年12月に仮出獄した後も日々身体を鍛え全国をまわり無実を訴えてきました。部落にルーツをおくたくさんの人たちは、その姿を自分の生き方に重ね、励まされ勇気を貰ってきた、と口々に語ります。無念の死に心は痛みます。

私たち一人ひとりには、部落差別をはじめとするさまざまな差別をなくし、すべての人の尊厳と平等が実現する社会に向け、それぞれができること、やらなければならないことがあると、私はいつも思っています。一雄さんの遺志を受け継ぐとはそれをひたすら前に進めること、それにつきますと思います。謹んでご冥福をお祈りいたします。

石川一雄さんの死亡により第 3 次再審請求の審理は 3 月 17 日付けで打ち切られましたが、早智子さん（配偶者）が 4 月 4 日に申立てたことにより、第 4 次再審請求として引き継がれます。担当は第 3 次と同じ東京高裁第 4 刑事部の裁判官です。改めてみなさんのご支援をよろしくお願いします。



支援する人は支援されている

石川一雄さん追悼集会参加報告

関口賢（高校支部）

一橋ホールは満杯

四月十六日に開かれた集会の会場は日本教育会館一ツ橋ホール。八百人収容のホールに入りきれず別階の会場も使ったので参加者数は千人を越えたそうだ。埼玉退教や埼玉人教のメンバーも多数参加されていた。開会前に映画「SAYAMA みえない手錠をはずすまで」の監督・金聖雄さん製作のショートムービーが上映された。「殺人犯」にでっちあげられ、獄中三十二年・仮出獄から三十年。「私は無実です」と訴え続ける石川さんの闘う姿だけでなく、連れ合いの早智子さんとの日常や冤罪の仲間「獄友」たち（袴田事件の袴田巖さん、布川事件の桜井晶司さん・杉山卓男さん、足利事件の菅谷利和さん）とカラオケを楽しむ姿も記録されていた。観ている内に涙が出てきた。

教員が問われた課題

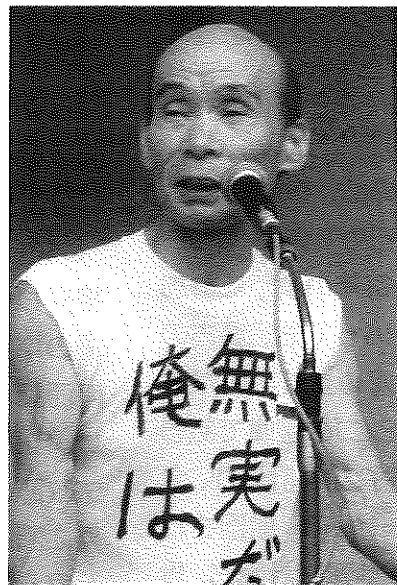
私たち教員は「狭山の教育課題」を問われ続けてきた。小学校の欠席日数が五百数十日もあったにもかかわらず石川さんは放置された。文字を獲得できないまま成人し、弁護士の役割が理解できずに警察官のウソを信じ込まされてしまった。教育の現場において部落差別を放置したことが石川さんを獄舎につなぐことになったのだ。しかし、石川さんは獄中で努力の末に文字を獲得し、解放を自覚して大きく成長した。教員は

目の前の子どもたちに最低限の教育を保障しなければならない。そして、獄中で大きく成長した石川さんの姿からは学習の可能性を信じることができる。

自分自身が励まされる

私も微力ながら狭山事件の再審を求める運動を支援してきたつもりだ。

でも、追悼集会で「支援する人は支援されている」ことを再認識した。日比谷野音での全国集会をはじめ石川さんの訴えを聞く機会は何度もあった。「石川さん頑張れ！」と支援の拍手をしていたつもりだったが、長い長い再審闘争にまっすぐ立ち向かう石川さんと支援する人たちの姿に私自身が励まされ支



援されてきたのだ。上記の映画のパンフには「不運だったけど不幸ではない」という石川夫妻のことばが書かれていた。「冤罪」という強い人生を受け止め、それでもまっすぐ歩む姿。そこには闘いだけでなく何気ない日常の「幸せ」や「友情」もある。四月四日、早智子さんが東京高裁に第四次再審請求を申し立てた。私は杓子定規な義務的支援ではなく自身の生き方としての支援をしたい。

お知らせ

退教だよりは総会議案書送付も含めて年4回です。ですが様々な集会、イベントなどお知らせしたい内容は多々あります。そこで退教会員の皆さんにはBCCメールで連絡したいと思います。アドレスの分かる会員には一度、沖縄平和行進に関するメールを送信しました。まだメールを受け取っていない会員の方でメール送信を希望される方は下記までお名前、支部を記し、メールを送信して下さい。yamadamasami015@gmail.com

暑さに負けず、街宣車にも負けず

第48回沖縄平和行進参加記

日沖 登（高校支部）

5月16～17日、沖縄平和行進が行われ、埼玉退教からは3名が参加しました。当日は埼玉高教組、埼玉平和運動センターの参加者とともに普天間、嘉手納とそれぞれのコースに分かれ行進しました。退教高校支部の日沖さんより参加記を寄稿してもらいました

きっかけは大浦湾埋め立て

沖縄平和行進に参加するのは、今回で8回目である。沖縄平和行進に初めて参加したのは、定年後のことで、その後毎年のように参加してきた。きっかけは、何といたっても辺野古の新基地建設による大浦湾の埋め立て計画が大きかった。かつて、希少なサンゴの宝庫である石垣島の白保に、飛行場を建設する計画が、全国の方々の粘り強い運動の成果で、撤回されたことがある。辺野古の新基地建設計画も、貴重な自然を破壊する許せない暴挙であり、絶対現地に行き反対の意思を示すべきだと思ったのである。

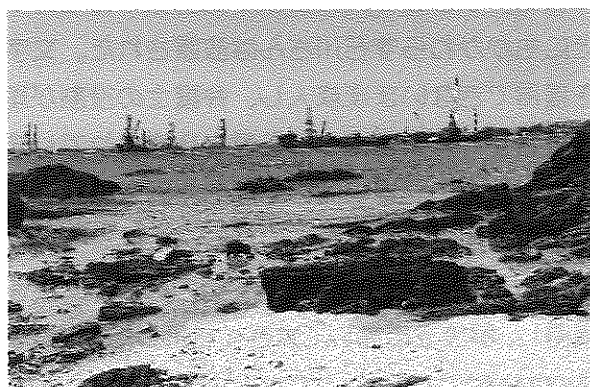
平和行進参加の際に、初めて辺野古を訪れた時、あらためて生物多様性に富んだ大浦湾の重要性を認識した。広大な遠浅の海は、普通の珊瑚礁とは異なり、シュゴンの餌となる柔らかく栄養豊富な海藻を育む沖縄でも稀有な場所であり、絶滅危惧種を含む多種多様な生物の宝庫なのである。又、隣接するキャンプシュワブの正門前で、反対の座り込みに参加し

たこともある。平和行進は、参加するたびに新たな発見があり、今回も行進前の事前学習で多くの新知識を学習することができた。

暑熱と街宣車に抗して

行進当日は、かなりの暑さと例年になくしつこい街宣車の妨害があったが、全国の2000人近い仲間と約13kmの嘉手納基地周りを完歩し、基地のない沖縄を目指し、憲法の改悪を許さない等を訴えることができて、あらためて抗議行動の重要性を認識した。

しかし平和行進に対するマスコミの扱いは、相変わらず小さいのが残念でならない。現政権の軍拡路線により、奄美大島や宮古島等の南西諸島に次々とミサイル部隊が配備されたり、自民党議員の歴史歪曲発言があったり、憲法改悪の危険がある今、私達は、そうした目論見に断固として立ち向かわなければならないと思う。絶対に教え子を戦場に送ってはならないのである。



辺野古大浦湾から杭打ち工事の現場を見る。

日退教ではこれまで「沖縄と連帯する日退教交流団」を組織し、昨年11月には第13次交

流を実施、現地で新基地建設に反対し、行動する県・高退教の仲間、県民、支援者と共に行動してきました。引き続き、新基地建設反対の取り組み、闘いを強化していきます。

連載

世界食い倒れ紀行(5) パリの三ツ星

+呑んだくれ

赤上光司(高校支部)

私はバングラのスラムでバケツ酒を呑んだり、ベトナムの僻地でネズミを食べているだけではない、高級レストランにも頻繁に行く。超グルメだったのだ。40才、離婚してからグルメになり、銀座をはじめとして三ツ星レストランにいきまわった。お金で買えるものの中で最高の幸せがそこにはある。ギャルソン(ウエイター)は私を貴族としてもてなし、驚くほど優しくサービスする。まず、大きな皿にちょこっとオードブル、これが1番の感激だ。ワイン、高いけど天国にいるのだから、そんなことは気にならない。私は、三ツ星で別人になる。三ツ星の優美、豪華さが別世界に連れて行ってくれる。そして、何よりも私はこんな素晴らしい三ツ星で食事をする自分が好きなのだ。

別世界の幸せがそこに

目指すはパリの三ツ星

45才位の時、「フランスの三ツ星に行かなきゃしょうがないじゃないか!」と思った。私はまず、フランスミシュランの英訳版を買い、日本の自宅から、パリの三ツ星レストランに電話した。カタコトの英語でも、日時、人数、時間が伝わればいいので大丈夫だ。何軒かの三ツ星、二ツ星の予約が取れると、それに合わせて航空券を買った。普通は航空券が先だろうが、それでは充分な予約が取れない、と思ったのだ。三ツ星、最優先、初めてのパリ三ツ星に私の心は踊っていた。

まさかの入店お断り

その最初のパリ三ツ星に、私は入れなかった。入店を拒否されたのだ。実はパリ空港を降りる時、突然、気がついた。「スーツがない!」。海外旅行で私はいつも短パン、Tシャツである。仕方がないから、私はその格好で、最初の三ツ星に行った。店の

入口でギャルソンが待っている。彼ははっきり、「予約は入っているが、その服装では入店できない」と言った。私は遠く日本から、このために来たのだと粘ったが、ギャルソンの断固たる姿勢は揺るがなかった。私は諦めて憧れの三ツ星を去った。

三ツ星レストランの虜になる

しかしこれで引き下がってははいられない。私はすぐに古着屋に行き、安めのスーツを購入。それから、さっきの三ツ星に電話する。幸い、滞在中にもう一度予約がとれて、この三ツ星に入ることができた。ギャルソンは何食わぬ顔で私を迎え、王様としてもてなし、最高の幸せをくれた。ただ、さすが、このギャルソンでも私を変な奴、と

内心では思っていただろう。この一週間の三ツ星巡り、私をフランスのレ

ストランの虜にした。まだ東京ミシュランの出る前の話だ。ありがとう、レストラン達。私はこの後、パリだけでなく、リヨンなど食の町を廻るため何度もフランスへ行った。

肝心の料理は…

T 嵐さん、私の娘、私の3人でパリの三ツ星を3店、巡ったこともあった。T 嵐さんはやはり大物、三ツ星にビビりもせず、ウエイレスと楽しげに話し、「君、可愛いよ」などと言ってウケていた。会計も3人で17万円だったが、高いと驚きもせず、ヘーゼンと払っていた。だいたい三ツ星は、2人で行っても10万円を下ったことはなかった。先日、T 嵐さんに聞いてみたが、料理の内容とか何も覚えてないとのこと。実は私も全く覚えてない。肝心の料理については何も書けないのであった。



ギャラリートークで活気

第34回文化展「比企野」開催

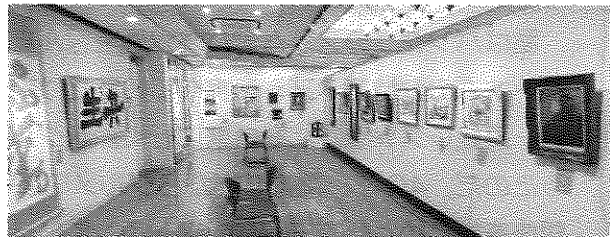
東松山市民文化センター（5/15～20）



今回、延べ585名もの来館者がありました。そして、出品者数は、延べ60名（前回延べ61名）で、出品総数は111点でした。会員外からは1名で2点の出品がありました。また今回の文化展を機会に、4月に退教会員になられたばかりの方、2名が初出品されました。

ギャラリートーク

今回、2回目となるギャラリートークを行いました。出品者と来館者との交流の場として設け、出品者には、自分の作品の制作過程や作品に込めた思いなどを話していただきました。



多くの方々に参加していただき、来館者からは率直な質問や感想などが出て、交流が深められました。

これからも、個々の会員が文化展を通じて、自分の好きなことに取り組み、楽しみながら、少しずつ向上していき、生き甲斐のある生活につながればと思っています。

（文化展実行委員長 島本良典）



歌人組合員 相馬及司さん

先輩組合員の思い出(1)

倉持 光好(南支部)



今回は、私たちの大先輩である相馬及司さんに触れさせていただく。

相馬さんは、現在はさいたま市の中の浦和で長く小学校教員を務められていた。そのみならず、教職員組合活動、埼玉退職教職員協議会設立に際し、初代事務局長として様々な仕事を熱心に進められた方である。

1989年の退職直前まで日の丸・君が代闘争を継続していた。教職員組合が分裂したころ、困難な埼玉教組の仕事も支援してくださった。様々な会議の中での相馬さんのしゃがれた元気なお声が、聞こえてくるようである。

また、相馬さんは、文学にも造詣が深く、歌人でもあり続けた。歌集「瞳瞪の四季」から、引用させていただく。

教育研究集会は教職員である組合員にとって一年で一番大きな教育行事である。退職後も多くの仲間が参加している。よく議論し、実践する若い教師に敬意を表する。

一点の雲さえ浮かぬ武蔵野に教育語る若者と集う
若者の討論ききて我になほ教育実践ひしひしと湧く
一人一人の子ども見詰めて教壇に立ちゐる若者集ふ教研

現職組合の研修合宿に参加する。東松山市の隣、吉見百穴の近くの八丁湖畔で

牛蛙無気味に鳴ける八丁湖古代の墳墓は岩山穿ち

原爆の日を迎えた。戦争しない国から戦争出来る国へ、百八十度転換し
そうだ。私は反対だ。平和でいたい。

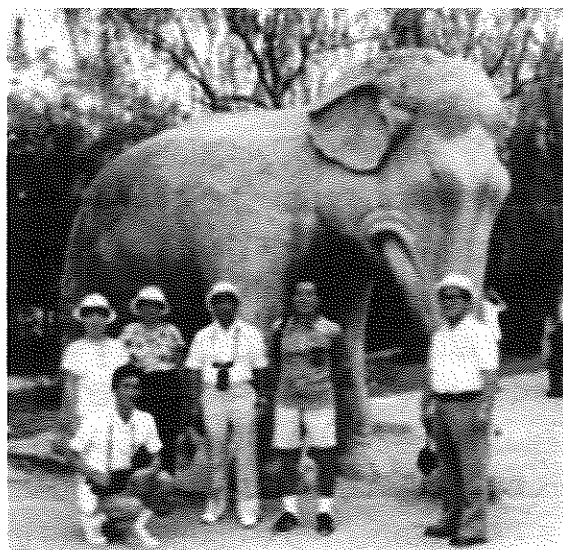
戦中派といはれし体も老いにけり友の便りに涙腺切れる
政治への怒りを抱き国会へ電車ののろさそれさへ憎し

牡丹が咲く頃になると 石川 博

右の写真は 1984 年、日中友好協会による北京・西安旅行の時、40 年余り前のものです。

この旅行の後も毎年のように、牡丹の花が咲く頃になると「中国へ行ってくる」と気軽に話していた相馬先生の雰囲気を感じられます。

写真右から高橋勇さん、相馬さん、今井勝彦さん。今井さんは児玉の人なら知らない人はいないと思います。3 人の中では相馬さんが一番の年長者ではないでしょうか。高橋さんは 5 年前に、相馬さんと今井さんはだいぶ前にお亡くなりになりました。



活動記録・行事予定

- 4月11日 第2回常任委員会
 4月19日 総がかり行動（衆議院第2議員会館）
 5月3日 憲法大集会（有明防災公園）
 5月16～17日 沖縄平和行進
 6月6日 日退教定期総会（日本教育会館）
 竹田邦明会長、松淵昂事務局次長が今期で
 退任し、新会長に平岡良久さんが、新事務
 局長に藤本泰成さんが就任しました
- 6月13日 『埼玉退教だより』6月号発送
 6月14日 長沼さんを偲ぶ会
 6月20日 第3回常任委員会
 7月4日 関東ブロック退教単会会議（ラポール日教済）
 7月16日 退職者連合総会
 9月16日 第1回ブロック代表者会議
 9月17日 地公三単産地公退高齢者集会
 9月18日 退職者連合全国高齢者集会
 10月9日 五者合同学習会
 10月11日 日退教 組織活動交流集会

5・3憲法大集会

38000 人が護憲訴える

真夏を思わせる暑い日だった。有明防災公園に退教会員は18名参加、今年も護憲の旗を高く掲げることができた。会場は去年よりも参加者が多いようだったが、昨年の衆院選挙で改憲勢力が2/3を割り込み、衆院の憲法審査会会長は立憲民主の枝野議員が務めるので、今のところ一定の歯止めはあるといえる。しかし政府自民党は集団的自衛権を容認し、防衛費を激増させたり、殺傷能力のある武器の輸出を進めるなど、実質的に憲法を踏みにじっている。実際、「憲法の上に日米地位協定がある」

（翁長雄志前
 沖縄県知事）
 という状態は
 不動である。
 私達は日ごろ
 からしっかり
 注視していこう。



挨拶に立った被団協の田中熙巳氏

朝の連ドラ「あんぱん」が見逃せなくなってきた。時代はちょうど太平洋戦争が始まったところ。舞台である高知の田舎町も戦時色で塗りつぶされている。主人公のふは国民学校の教師として、「愛国のかがみ」ともてはやされ、教え子を戦場に送る急先鋒の役割をはたしているのだ。召集されたら「おめでとうございます」、戦死したら「ご立派でした」。そのように人々は言い合い、否応なく軍国日本の流れに飲まれていく▲ドラマでは国防婦人会が大手をふるい、「非国民」的言動を取り締まる草の根ファシズムの姿が描かれる。庶民からは遠い存在の国家とか軍部などは別に怖くない。本当に怖いのは隣人である。濃密に関わり合い、助け合う隣人達が真綿で首を絞めるように戦争への協力を強いる▲こんな時、戦争に抗うことができる人はいるのか。ドラマでは出征する息子のタカシに向かって「死んだらダメ、卑怯でもいいから生きて、

亀甲 年功

戻ってこい」と叫ぶ母親・登美子が駆け付ける。周囲の人々から非難されても、登美子はひるまない。彼女はドラマの中では、わがままで自分勝手な母親として描かれていた。しかしいざ息子の生死の分かれ目に際しては、ためらわず流れに逆らったのだ▲どんな時代がきても反戦・非戦を貫けるのは、徹底的にわがままで自分勝手な人なのではないか。けれども私達は身近にそんな人がいたら、白い目でみるだろう。自分の事しか考えないのか、少しは周りに気をつかえよ…とか言ってね▲でも世の中が一斉に一方に流されていく時に、逆向きに歩いている人がいてもいいじゃないか。いや、むしろその人たちは貴重な存在なのだ。ドラマはそんなことを考えさせられた（Y）